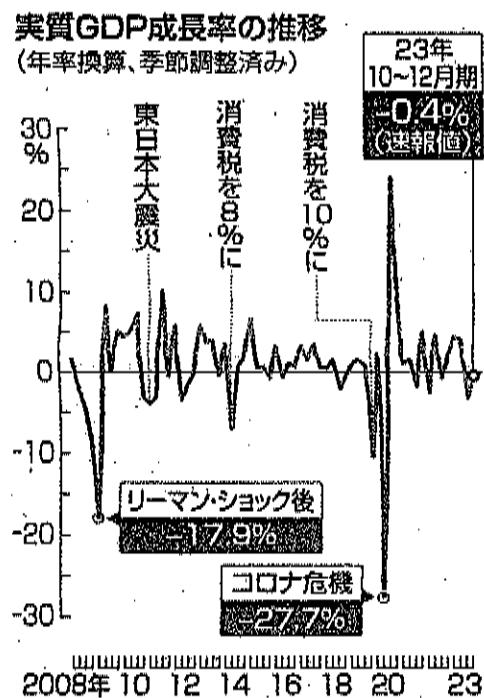


2/16 金

GDP

23年世界4位に転落

10~12月 年率 0.4% 減



内閣府が15日発表した2023年10~12月期の国内総生産(GDP、季節調整済み)速報値は、物価変動の影響を除いた実質で前期比0.1%減。この成長が1年続いた場合の年率換算で0.4%減でした。マイナス成長は2回半期連続。23年通年で、国際比較で使

われたGDPの実額がドイツに抜かれ、世界3位から4位に転落しました。来32年ぶりの高水準となり、実額も最高を記録しました。ただ、大幅な円安の進行でドル換算のGDPが

↓解説②面

23年10~12月期の実質GDPの内訳は、過半を占める個人消費が0.2%減、設備投資は0.1%減など、それでも3期連続のマイナス。

物価高を背景に実質賃金が低迷したほか、コロナ禍明けの需要回復が一服し、内需を圧迫したもようです。

23年通年の日本の実質GDPは前年比1.9%増

と、3年連続のプラス成長となりました。
23年通年の日本GDPはGDPの米ドル換算は、前年比5.7%増の5,110億ドル(4兆2,100億円)。名目成長率0.6億ドル)。名目成長率計算しました。

内需総崩れ 政治の責任で所得向上を

実質で年率0・4%減とマイナス成長だった2023年10～12月期の国内総生産（GDP）は改めて日本経済の低迷を示しました。

GDPの半数超を占める個人消費は前期比0・2%の減少でした。家計輸出は同2・6%増だったものの消費を示す家計最終消費支出（持家家の帰属家賃を除く）は同0・3%減と個人消費の減少幅を上回りました。企業の設備投資も同0・1%減と低迷しました。

企業の設備投資も同0・支も赤字でした。GDP ます。

内需とともに日本経済を支えるのが外需です。輸出は同2・6%増だったのに対し、輸入は同1・7%増でした。輸出入の差し引きでプラスとなる

の計算上では貿易収支が黒字に変わった。企業の設備投資が前回を下回るのは3期連続です。民間住宅も2期連続のマイナスで内需は続いた。企業の設備投資が前回を下回るのは3期連続です。民間住宅も2期連続のマイナスで内需は続いた。

内需とともに日本経済を支えるのが外需です。輸出は同2・6%増だったのに対し、輸入は同1・7%増でした。輸出入の差し引きでプラスとなる

の計算上では貿易収支が黒字に変わった。企業の設備投資が前回を下回るのは3期連続です。民間住宅も2期連続のマイナスで内需は続いた。企業の設備投資が前回を下回るのは3期連続です。民間住宅も2期連続のマイナスで内需は続いた。

（清水渡）

日本のGDP低迷

実質で年率0・4%減とマイナス成長だった2023年10～12月期の国内総生産（GDP）は改めて日本経済の低迷を示しました。

企業の設備投資も同0・支も赤字でした。GDP ます。

企業の設備投資も同0・支も赤字でした。GDP ます。

内需とともに日本経済を支えるのが外需です。輸出は同2・6%増だったのに対し、輸入は同1・7%増でした。輸进出口の差し引きでプラスとなる

の計算上では貿易収支が黒字に変わった。企業の設備投資が前回を下回るのは3期連続です。民間住宅も2期連続のマイナスで内需は続いた。企業の設備投資が前回を下回るのは3期連続です。民間住宅も2期連続のマイナスで内需は続いた。

企業の設備投資も同0・支も赤字でした。GDP ます。

（清水渡）